



十二月号  
発行所  
財団法人 日本仏教会  
東京都中央区築地  
三ノ木一丁目  
電話 54-0323  
発行人 栗本俊道  
編集者 高橋忠雄  
印刷所 栄昌堂

### 国際親善に大きな役割！ 日本代表団の壮途に期待

才五回世界仏教徒会議は、既報の通り十一月二十四日より一週間タイ国の首都バンコック市を中心会場として世界各国代表の出席を得て開かれるが、これに先立ち、西沢浩仙団長以下二十名の日本仏教代表団は、去る二十二日羽田発で壮途に付いた。

代表団の壮行会は二十二日午後六時半より、東京築地本願寺で開かれた。高階会長、重永理事長ほか各常務理事、理事、国際委員と各種委員等全仏役員は勿論のこと、各界代表と、代表団員の関係者等凡そ二百名が会場をうずめた。

会長堀下導師で三帰依文を同唱の後重永理事長は南北仏教の相互理解と世界仏教徒の和合招来、更に国際親善促進の上での代表団の役割の重要性を強調し、その活動に対する期待を述べて壮行の挨拶とした。

続いて今度の代表団の捧持仏として、国際親善平和観音鎮仰会(会長、名古屋日泰寺信徒総代古川為三郎氏)より寄贈された如意輪観音像(高藤鎮夫作(フランス製)が受領され、仏前で高階堀下導師のもと般若心経が読誦された。ついで団旗の授与が行われ、代表団員が一人一人万雷の拍手の中で紹介された。各界を代表しての敬送の辞とし

### 会長メッセージ

私は全日本仏教会を代表し、才五回世界仏教徒会議に世界各国より参集せる諸賢に対し、心からの御挨拶を申し上げます。

本大会が君民一体の仏教信仰の国タイ国の首都バンコック市に開催されたことは欣快のいたりであります。特に日本仏教徒にとつては感銘深く能わざるものがあります。即ち、明治三十三年タイ国チュ

ランカーラ王の優詔により、日本仏教徒は有史以来初めて仏陀の聖骨を賜つたのであります。この聖骨は今もなお名古屋郊外に築造されているガンダーラ様式のパゴダに奉安されております。仏教の本義は憎しみ、貪り、驕りの無い人間生活を具現するにあ

史、名古屋の古川為三郎氏等からそれら、激励敬送の意が表され、大きな期待が述べられた。更に代表団携行の数々の贈呈品が披露され、西沢団長の謝辞の後、万歳を三唱して盛会は午後八時に及んだ。

### 深夜の羽田空港 仏教一色で彩どる

定刻九時二台のバスに分乗した、代表団と見送りの人々、更に数台の車が列を作つて一路羽田空港へ向けて本願寺正門を出る。万歳の声が起る。

羽田に着くと各代表の地元の人々が数人もつめかけて非常な大きざわいだ。池上のマトイが振られ、大鼓が打たれる。築地の仏教聖歌の合唱が起る。菓子の商店街のノボリ、各宗派の旗が林立する。あちらもこちらも万歳の声が絶えな

ります。全人類がかくの如き生活を享受せざるかきり、如何なる意味においても平和が到来したといえませんが、我々仏教徒は過去四回の会議をもち、平和について多くを語りあいました、しかしながら世界の現状は依然として暗雲が低迷しております。仏陀の教説を信する我々は、過去における我々の議論及び実践を反省し、然る後今後の行動を決定すべきであります。行動が仏陀の正法に基づく限り、それは議論よりもはるかに勝れたものであります。本大会が全人類の心に、仏陀の正しいダルマ(法)を侵透する最も適切な方法を発見する事を期待し、その成功を祈る次第であります。

合掌

ヤッターを切る。西沢団長が力強く出発の決意を語る、午前零時過ぎ代表団を乗せた日航機は羽田をあとに一路バンコックへと向つた。



羽田出発直前の代表団

- ### 数々の贈呈品
- 一、タイ仏教会へ如意輪観音像一尊
  - 一、タイ国王へ燃金地絹テープルセンター、並に摩唐大師尊像額(福岡梅田信隆師寄贈)
  - 一、総理大臣へ燃金地絹テープルセンター
  - 一、仏教会長へテープルセンター
  - 一、副会長へ
  - 一、宗教局長へ
  - 一、仏教僧伽総長へ 極上中啓
  - 一、タイ国青少年へ 日本少国民の図画二〇〇点(提供梅田信隆、中野顯文、鈴木鎮成、鈴木錦吾、中山理々、各代表)
  - 一、タイ国王始め各位へ、名香(名古屋市近藤法泉堂提供)
  - 一、インド大菩提会へ 釈尊成道降魔の額(寄進鈴木錦吾氏)
  - 一、インド大菩提会ヴェアリシハ事務総長へトランジスタ・ラヂオなおこの他各宗派本山、日泰寺、ヤング・イースト社等より多数の書籍その他が提供され、それぞれ各方面に贈呈される。

### 釈尊二五〇〇年祝典 諸準備着々進む

常務理事会 日程等を確認

去る十一月七日午前十一時より東京築地本願寺で釈尊二五〇〇年祝典の問題を中心に常務理事会が開かれ、祝典日程の概要等が確認諒承され、更に全仏の平常事務報告を受け、これを承認した。

祝典は来春三月二十七日より三十一日まで東京で記念大会仏教主義によるシンポジウム等を行った後、四月一日より八日まで、各地方大会が全国的に開催され、九日の東京都知事主催敬送パーティーを最後に全日程を終了する。全仏では各地方大会の日程並に大会開催のための現地との交渉等

準備を進めているが、各宗派、地区仏教会でも非常な協力が期待され、この機会に仏教興隆運動が全国的に盛り上げることが予想される。全仏ではこの気運を更に促進し内容のあるものとすべく、各方面に働きかけているが、各宗派を通ずる仏教徒募金等による財政的裏付けの確保も重要で、この面での協力も心から要請している。なお、この祝典・事業費にあつては各宗協同仏教徒募金は、既に募金袋三十五万枚を作成、各宗派宗務所宛発送し、早くも尊い浄財が寄せられている。

# 全一仏教の理念について

去る才六回全日本仏教徒会議東京浅草寺大会では、「全一仏教運動をいかに推進すべきか」について熱心な討議が行われた。これに關して大会当日も討議に参加された、日本大学教授、工学博士山本洋一氏より寄稿があつたので、おくれればせながらこゝに発表させていたゞき読者各位の御参考に供する。

三法印は仏教の經典と外道のそれを區別すべき三種の印であるといわれる。しかも、三法印は物心一如の法であつて、これこそ仏教の根本なのである。仏教としては三法印の説を含まなければならぬものである。いわゆる仏教の宗派にして三法印を説かざるものがある。各宗各派と三法印の説きかたはちがふたとしても、三法印こそ全一仏教の一つに於て、三法印こそ全一仏教の理念でなくてはならない。

釈尊は三法印を中心として對機説法をされたのである。四諦・十二因縁・八正道も三法印の展開である。釈尊の悟りの大本は三法印であり、これを正法として、その解釈の差異で八万四千の法門を生じ、それが整理統合して、日本では今日の各宗各派となつてゐるが正法は文字どおり一に止まる法であり、それを言葉で以てあらわしたのが三法印である。

諸行無常・諸法無我・涅槃寂靜の三つの文句は、そのまゝが一つの根本道理であつて、万物万象の

生滅・存在のすじみちを示すものとして、まさしく人の心をもちびき、さらに物の真相を明らかにする科学をも正しくする、まさに物心一如の法なのである。

三法印をみとめずには仏教は科学と矛盾しない、科学をも包含するなどとはいえない。三法印を中心としてこそ、仏教は現代生活に役立つのである。經典の多くを文字どおりに読むならば、今日の科学に矛盾することからの方が多い。

三法印として、そのままの文句は示されなくとも、その内容が説かれれば、それでよいのである。三法印の三の数字にこだわることはない。仏教の根本をなす道理が、諸行無常・諸法無我・涅槃寂靜というわけだが、これでは全くチンプンカンプンであるので、今日では今日に調和した言葉でいいあらわさなくてはならない。正法は常住不滅であつてかわらないものだが正法の説きかた教えかたは、時代に調和するようにうつりかわるのが本當であつて、これが正法の示

すことである。仏教も時代とともにうつりかわるのが当然であるのを、何故に古き伝統にのみこだわるのか、こだわりをすてて、時代に調和しない姿を見て、人びとの多くが仏教は古くさい、抹香くさいといふのである。

一切皆空、万物万象の根元はただ一つ、それを空(くう)といふ空によつて万物万象のつくりだされるすじみちを示しているのが、三法印である。三法印こそ、万物万象の存在の理法であつて、根本道理なのである。この根本道理を肝心の宗(むね)として示し教えるものが真の宗教である。肝心要にあれやこれやとあつてはならぬ。ここに正法を中心として展開する仏教は、単に全一仏教の名にとどまらず、世界のいわゆる宗教を一つに掃せしめる運動ともなるのである。真の宗教が全世界にひろまる。そのときにこそ、真に人類の平和と幸福による繁栄、すなわち極楽浄土がこの地球表面にうちたてられるのである。

三法印こそ、それをよりどころとすべきものである。三法印をよりどころとしての政治・経済・法律・科学・産業・芸能・道徳・教育などがあらゆる文化の面を正しく円熟させるのである。三法印こそ全一仏教運動の理念であるとも、これが仏教精神ともなるのである。和を以て貴しとすることも無我といふことによつてきたるものである。各宗各派はその信仰は信仰として、全一仏教の理念として三法印をとりあげるべきである。(全日仏社会平和委員長)

## タイ仏教事情(承前)

藤井真水



タイ国を初めて旅する人々は早朝みる黄衣洗足の多いのに驚かれる事だらう。我が国で想像もつかない現代離れした釈尊時代の原始な夢の国(の如き)感じを受けるであろう。タイの国民は三宝に対する婦依まことに厚く、比丘を尊敬する念は大変なものである。釈尊が如何に偉大なるものであるか、釈尊の教へ程最高最尊なるものはなると国民全体の血となり肉となつていて、その信仰の度も深く、老幼男女おしなべて一律に仏法僧に帰依して慈悲の心、生きものを大切にすることを、仏教が国民の生活にそのまゝ浸透してゐると云うことが出来る。人と人との挨拶は必ず合掌に依つて行はれる風景も自然の成り、言葉づかいは常に丁寧で、行儀正しく風習は若い時代に僧伽の生活の門を潜ぐつてる賜ものでもあらう。才二回世界戦争も終つて各地から引揚げがあつたが、恐らくはタイ国からの引揚げが一番幸福であつたのではなからうか。タイ政府の思いやりは数々の引揚邦人に対し白米、ジャボン、バナナ、白砂糖等各人に行きわたる程親切に、与へられた厚情は誰れしも感激しないものはない。流石かに仏教の国だと有難く思つた事だらう。慈悲寛容、相互扶助の仏教精神は外交的にも個人的にも直接味つた者は仏教国日本を任ずる私達も今一度反省の要を感じさせられるわけである。然し現タイ国の識者間には日本の仏教を非常に興味を以て研めたいの要するの多くなつてゐる事も事実である。特に鈴木大拙先生等に渡りタイ願つて仏教講演を要望していることは、タイ仏教の進歩的傾向とも云えると思ふ。

世界の仏教国とは云へ中共の勢力は今や南方諸仏教国にも自然に影響を与へてゐる。タイ国にも昨年仏紀二千五百年祝典後政変ありビボン首相は退き、終身元帥として昨年十二月四日夜ひそかに日本に亡命されて來られたが、急逝去る九月十四日カリフォルニア大学講師としてアメリカ政府から招かれて渡米された。ビボン首相は非常な反共的仏教に熱心な首相であつたが、現政府も亦ビルマ等の隣国と共に協力して華僑の多いタイ国は特に共産化されない様に努力している模様である。

仏教国タイは日本との関係も昔から深く、山田長政の活躍されたところでもあり、仏像としては日タイ寺が名古屋にあり等々他種々因縁も厚く日タイ関係はあらゆる意味に於ても益々親善を深めて、共に仏教国として親交を深める事は望ましいことではなからうか。

才五回世界仏教徒会議が今年タイ国で開催されるに当りタイ政府は莫大な予算を計上して昨年の仏紀二千五百年祝典の延長としてあらゆる記念事業を興へし国家繁栄の意気に燃えてゐると思われ(全日仏国際委員)

# 眞剣な研究を続ける

## 「政治経済委員会」

去る十月二十九日開催の才一回委員会において、本委員会は、時局問題についての仏教者の態度を明らかにすることをめざしはするが、当面は、仏教徒としての政治経済諸問題に対する基本的なあり方についての基礎的研究を進めて行くことが確認された。才二回委員会は十一月十二日午後二時から東京芝の曹洞宗務庁二階で左記の各委員出席のもと定刻松本徳明委員を座長として開かれた。

委員長 松本徳明氏 (芝高校長)

副委員長 大野信三氏 (法大教授)

出席委員 友松円諦、大野信三、狩野慶麟、安藤 覚、米山 久、山本洋一、松本徳明、壬生照順、桜井栄章、吉田敏直、常光浩然、那須政隆、栗本局長、石川局長、佐瀬局長、高橋部長。

### 原水禁宗懇

平和運動全般に動く

原水爆禁止宗教者懇話会ではかねてより去る八月の原水爆世界大会(原水協主催)終了後宗懇の進むべき方途に付幹事会等を開いて反省検討を続けていたが去る十日夜東京虎ノ門共済会館に於て各団体出身の代表委員と幹事との合同懇談会を開いた。

出席者は新宗連を除く各団体より天々出席し(但代表委員代理)種々懇談協議を続け結果左の各項に付申合せを行い八時過ぎ散会した。宗懇今後の活躍が期待される。

一、宗懇は今後戦争防止のあらゆる平和問題に対し定期的に一定のテーマを設け、之を繞つて研究会を開く事

一、出発以来今日までの負担金の整理を行う事

一、刻々展開する時事問題に対決して宗懇の態度を声明する必要を生じた際全会一致がとれない場合は有志の名称でも一

### 社会平和委開かる

応意志表示をする事も考へておく事等

去る十一月七日午後二時より、東京築地本願寺で、当面の緊急諸問題について社会・平和委員会が開かれた。当日は、警職法問題について各委員から、可成り具体的な意見が提出された。しかし、全日本仏教会」として軽々に賛否何れか

## 関西合同専門委員会

### 去る十八日京都知恩院で

関西における全日仏組織、教化社会平和各委員会の合同会議が去る十八日午後二時から京都知恩院華頂会館で開かれた。定刻福開院長の開会の辭に次で干々和事務局長の挨拶あり、本部栗本局長、高橋部長、本委員会招集の目的及び左の協議題の内容説明を行つた。

干々和総長座長となり逐次協議を進めた。就中最近問題となつた警職法改正を繞る諸問題に關しては仲々活発な意見が出たが結論としては関東の政経委員会、社会平和委員会の結論通り仏教者としての態度を堅持し飽くまで冷静に推移を見守り乍ら研究をすゝめてゆくこと云う事になつた。

◇協議事項

- (1) 最近の社会問題に対する仏教会の態度に就て
  - (2) 仏紀二千五百年記念事業に就て
  - (3) 関西地区の組織促進に就て
  - (4) 政治、経済委員会の結成に就て
  - (5) その他
- ◇当日の出席者
- 田丸道忍、高橋照空、矢野康嘉、山心義泰、狭川明俊(代)中戸堅正、桑原堅屋、奥博仁、佐藤寛雄、秦 隆真、伊藤規芳、干々和宝天、牧野ます、福井課

にして態度表明をすることは、問題があるとの結論に達し、仏教徒としてはむしろ、もつと高い立場から、現在の日本のよつて来る所を明らかにし、深い洞察の上に正しい判断を打ちたるための着実な研究を進めるべきことを確認した。

尚、出席は、山本洋一、小野清一郎、田中法善、中濃教篤、丸山行選、山崎海弘、壬生照順、浜田本悠の各委員であつた。

### 近畿仏教会代表懇談会

去る十一月十九日午前十時より京都嵯峨天竜寺で、近畿二府四県の仏教会代表懇談会が開かれ、同地方仏教会の団結と全一仏教運動への協力について協議が行われた。席上、仏紀二五〇〇年記念式典への協力についての固い決議が行われた。

### 千葉縣仏近く発足

準備世話人会で確認

千葉県の仏教会組織については、かねて全仏でもその推進方について努力を重ねて来たが、野田市仏教会(会長勝田光宥師)の強い発意もあつて、県仏組織化の準備世話人が去る十一月二十四日午後二時より千葉市吾妻町光明寺で開かれた。

当日は野田市は勿論、遠く銚子市、地元の千葉市、木更津市、船橋市、成東町等の熱心な代表が参集し、都合悪く欠席した各市郡仏か

らも、それぞれ意見連絡等があり、県仏組織への熱意がうかがわれた。

会議は千葉市仏能野竜夫師の司会、座長で行われ、同師の本会議開催に至つた経過報告、野田市仏鈴木栄親師の補足説明会、栗本局長挨拶の後協議に入つた。出席各代表は交々意見の発表を行い、懇談の通り確認して協議を終り、懇親会に移つて相互の親交を深め、今後の活動への結束を固めて午後六時散会した。

- ① 可及的速やかに県仏組織を確立する。出来れば明春正式発足。
- ② 組織は地区仏教会(市郡仏教会)の連合体とし、先づ既成の市郡仏教会を県仏に組織し、逐次未組織地区仏の組織方を懇意して加盟方を促進し、名実共に全県の連合体へと發展させる。
- ③ このため県仏規約案その他準備のため去る十二月九日準備小委員会を開く。
- ④ 当面の仮事務連絡所を千葉市吾妻町光明寺内におく。
- ⑤ 本日出席代表は全員準備委員として協力する。

因みに当日の出席代表は次の通り

(千葉市仏) 熊野竜夫、松村隆禪  
 (野田市仏) 鈴木栄親、勝田玉雄  
 (銚子市仏) 上野順教、相川頼敬  
 (木更津市仏) 山崎義隆、山本恭雄  
 (船橋市仏) 菅野義典、川崎信教  
 (成東町仏) 大井文潮、

の各師

なお、千葉県仏が発足すると関東地方一都六県の県仏組織が完備することになり、今後の活動が大きな期待と注目を集めている。

# 伊豆の被災者に救いの手を

## 全仏教界あげて救援活動

去る九月末、伊豆地方を中心に猛威をふるった颱風による風水害地に対して、全国的な救援活動が行われたが、仏教界でも各宗派、地区仏教会、諸団体で活潑な救援活動がなされた。それらの諸活動のうち、本会に報告のあつたものをこゝに発表して心からの敬意を表し、感謝をさしげます。なお、これは仏教界での当該活動の一部であつて、各地域で、また他団体との協力のもとで、殆んど全仏教界で救援活動が行われたこと、考えられる。

静岡市仏教会	一、五〇〇〇円
熱海市仏教会	一、九〇〇〇円
三島市仏教会	一、九〇〇〇円
沼津市仏教会	二、〇〇〇〇円
同市西浦仏教会	三、〇〇〇〇円
同市片浜仏教会	三、〇〇〇〇円
同市金岡仏教会	三、八〇〇〇円
同市静浦仏教会	五、〇〇〇〇円
同市大中山寺	一、〇〇〇〇円
同市光長寺	一、〇〇〇〇円
吉原市仏教連盟	一、〇〇〇〇円
吉原市教化連盟	一、〇〇〇〇円
富士宮市仏教会	八、五六六円
富士市仏教会	五、〇〇〇〇円
清水市仏教会	七、八〇六円
清水市庵原村	七、三三三円
臨濟寺院	二、〇〇〇〇円
静岡市浄土宗	一、〇〇〇〇円
静岡市浄土宗	一、〇〇〇〇円
県仏中部大会	二、七八一円

糖津市仏教会	一七、〇〇〇円
藤枝市仏教会	五、〇〇〇〇円
榛原郡仏教会	三、〇〇〇〇円
同郡初倉村仏教会	三、〇〇〇〇円
同郡吉田町分会	五、〇〇〇〇円
小笠郡浜岡町仏教会	一、〇〇〇〇円
周知郡仏教会	八、〇〇〇〇円
磐田市仏教会	五、〇〇〇〇円
浜名郡臨濟宗妙心寺派	五、〇〇〇〇円
引佐郡方広寺	一五、〇〇〇〇円
浜松市仏教会	五、〇〇〇〇円
石川県仏教会	二八、〇〇〇〇円
石川県仏教会	二、〇〇〇〇円
栃木県仏教会	二、〇〇〇〇円
東京浅草寺教化部	二、〇〇〇〇円
災害直後から本堂前で募金運動を実施、諸団体、婦人会、朝まわり会、幼稚園等呼びかけた	五、〇〇〇〇円
衣類	三三〇〇円
手拭タオル等	二、〇〇〇〇円
浄土宗本派	二、〇〇〇〇円
災害直後同地方寺院に見舞状、檀信徒に対しタオル五〇〇〇本	一、〇〇〇〇円
老道教団	一、〇〇〇〇円
現金	五、〇〇〇〇円
衣類	五、〇〇〇〇円
統理以下全信徒の心からの慰問の意を表した。	一、〇〇〇〇円
真宗大谷派	一、〇〇〇〇円
見舞班を現地に派遣	一、〇〇〇〇円
現金	二、〇〇〇〇円
手拭	二、〇〇〇〇円
を贈る。又伝道車を派遣、現地教区で義捐金を募り被災者に贈る。	三、〇〇〇〇円
浅草本願寺婦人会	三、〇〇〇〇円
現金	二、〇〇〇〇円
慰問品	二、〇〇〇〇円
本門仏立宗	二、〇〇〇〇円

伊豆地方の同宗寺院、信徒の被害も大きく、特使を派遣全国同宗寺院に呼びかけて、義捐金百万円に達した。

宗務院と現地とに対策本部を設け、総長以下の特使を派遣し現地を見舞う全国寺院に呼びかけ救援物資数千点、現金約四〇万円(十一月二十日現在)を贈る。

高野山真言宗  
早瀬被災者救援対策本部を特設し全国寺院に救援活動を依頼、全国的に托鉢その他の方法で募金が行われ、十一月八日現在約八十万円が集計されている。

曹洞宗  
十月十五日現地見舞の特使を派遣、宗務庁から約三十万円の見舞金を贈った。全国寺院では個々に或は地域的に独自の救援活動を行つていくが、宗務庁の募金に応じて十一月二十日現在九九、六三〇円が寄せられている。なお現在、現地檀信徒への見舞品として風呂敷四五万枚、打敷五万枚が発注されており、現地に送られた。

浄土真宗本願寺派、築地別院  
本山並に全国寺院、婦人会その他当派所属諸団体の協力により現金一五、〇〇〇円衣類、日用品等一五個、毛布三百枚、布団三百組等最も現地で要望するものを早速現地見舞として贈つた。

### 教化面の実策を!

#### 神奈川県仏教徒会議

神奈川県仏教徒会では、強固な県仏組織をはかり、活潑な諸活動が行われているが、去る十一月二十一日午前十一時より、鶴見総持寺において県仏教徒会議を開催した。

川原総持寺貫主親下、内山神奈川県知事はじめ、県下各界代表臨席のもとに厳粛盛大な開会式が行われた後、昼食小憩、午後一時より増永電恩博士の記念講演「新時

代の仏教活動は如何にあるべきか」が約一時間に亘つて行われた。その後各議題について真剣活潑な討議がなされたが、特に教化方策の確立(特に新興宗教対策等)解放農地補償問題等については出席各代表の熱意の発露が見られた。約二百名の代表は夕刻まで各議題の討議を続け県下仏教界の協力を誓つて盛會に終つた。

### インドネシアへ観音像

かねて外務省を通じて要請のあつたインドネシア中部仏教会に対する仏像贈呈については、国際親善平和観音鑲像会(会長古川為三郎氏)の好意により観音像(高藤鎮夫作)を贈ることになり、去る十一月十二日午前十時出帆の東京船日昌丸で托送された。当日は全仏柳園国際部長、名古屋の仏教婦人会員、幼稚園児等多数が埠頭に見送つて、仏縁による両国親善の増進を祈つた。

ハンガリヤへも仏像  
ハンガリヤ仏教会よりの要請にこたえて、前記観音鑲像会寄贈の観音像を贈る件は、種々交渉の結果、外務省公用便にて、オーストリア・ウィーンに日本大使館を通じて近く贈呈方が実現することになった。

### あ と が き

- ◆世界仏教徒会議への代表団一行を送り出した事務局は台風一過の感
- ◆但し紀三五〇〇年祝典会議、地方行事の準備が始つたので事務局は又々年末年始へかけて大忙し
- ◆今年には府県仏教徒会議が相次いで開かれ、黙々と地方仏教運動に挺身されている人々の血と汗の体験談が発表され貴重な記録を残している
- ◆十月末から十一月にかけて社会平和、政治経済委員会で真剣に

討議された警職法その他の生の問題は最近の仏教会にとつて随分熱の入つた委員会であつたが結論が静かな寛容性に富んだものだけに余り目立たない。然しかゝる問題に対してはもつと早く深く研究討議して全国仏教徒に詳細報道して参考に資したいものだ、月刊ではなさけない。

◆愈々成道会だ、静かに内省して再出発をやるう!  
(一九)

題「現代人の宗教」  
内容は必ず教義面と実践面とを織込み、わかり易く、具体的であること。

枚数 四百字詰原稿用紙三十枚まで。筆者略歴(二百字)添付。応募原稿は返還しない。

中外日懸賞論文募集  
報社賞  
締切 十二月十日  
宛先 京都市東山区一橋宮ノ内町七

発表 中外日報社論文募集係  
入選論文は本紙新年号に掲載。

賞金 入選一篇、中外日報社賞(五万円及び記念品)

中外日報社

全仏年賀広告募集  
通信  
例年の通り本新年号で年賀の紙上名刺交換をいたします。  
ふるつて御申込下さい。

団体 一〇〇〇円以上  
個人 五〇〇円以上  
締切 本紙編集部  
十二月十五日